



12.8 不戦のつどい

地域の歴史から戦争を考える

第二次世界大戦中の1941年12月8日は、日本がアメリカ、イギリス、オランダ領を奇襲攻撃して太平洋戦争が開始された日です。第二次世界大戦が終了した時点で、アジアでおよそ2,400万人、日本で310万人の命が失われました。

私たちは、こうした戦争を絶対繰り返さないために、戦争体験を語り継ぎ、平和を守る活動を交流するつどいを、太平洋戦争が開始された12月8日にちなみ、毎年12月に「12.8不戦のつどい」として開催してきました。

芝の作付面積全国1位の茨城県で、その芝畑のほとんどはつくば市内にあります。「なぜ、つくばの芝生産は盛んなのでしょうか。」今回の講師の石上氏は、小学校の社会科の授業でこのような問題を提起し、つくばの芝生産の歴史を通してその背景にある戦争と平和について考える学習に、子どもたちと取り組みました。今年の「12.8不戦のつどい」は、この取り組みをご紹介いただくなかで、つくばの現在につながる戦争の歴史と平和の尊さについて考えます。

「12.8不戦のつどい」に、ふるってご参加下さいますようお願いいたします。

<プログラム>

午後

- 1時45分 開場
- 2時00分～ 開会の挨拶
- 2時10分～ 講演
- 3時30分～ 質疑応答
- 4時00分 閉会の挨拶 終了



[講演] **つくば市の芝畑を教材にした戦争学習**
～なぜ、長野県の人がつくば市に来て芝畑をつくったのか～

講師: **石上 徳千代氏 (茨城県歴史教育者協議会)**

[日時] 2023年12月9日(土)午後1時45分開場、午後2時開始

[会場] 豊里交流センター 2階 視聴覚室(つくば市高野1197-20)

[参加費] おとな 500円、こども・学生 無料

※ご来場の際はマスクの着用等、インフルエンザ、新型コロナ等の感染拡大防止にご協力ください。

主催: 「12.8不戦のつどい」実行委員会

連絡先: 「12.8不戦のつどい」実行委員会 (E-mail: 12.8notsudoi@gmail.com)